

第 101 回定時株主総会 質疑応答の概要

- 質問者：5 名
- 質問数：6 問

質問 1
伊勢崎オートレースの現在の状況や今後の見通しについて詳しく教えてほしい。
回答 1
伊勢崎オートレースは 2025 年度に 139 日開催し、本場の入場者数は約 21 万 5 千人、売上高は約 230 億円、1 日平均売上高は約 1 億 6500 万円。 2023 年に走路を大幅に改修したことでレースの魅力が向上した。また、無観客のアフター 5 ナイターレース開催によるインターネット投票の売上が増加している。今後も家族連れのお客様が楽しめるイベント実施等、ファンに親しまれるオートレース場を目指す。

質問 2
東京都の出身者が取締役に入ることに對し、官公庁的な発想に偏り、ビジネス感覚が欠如する懸念はないか。また、中期経営計画の策定にあたり、民間出身の村田社外取締役から、取締役会でどのような提言・議論がなされているのか聞きたい。
回答 2
企業の投資対効果と通ずるように、行政においても「費用対効果」には非常に敏感である。 (村田社外取締役より) ビジネス的な観点から「ここはこうあるべきではないか」という意見を遠慮なく述べている。一つ一つの施策について、取締役会やそれ以外の機会においても密に議論を重ねており、市場のニーズや将来性を常に意識した形で計画を進めていく。

質問 3

物価高を上回る賃上げが社会的に求められているが、今年の賃上げ予定はいくらか。

回答 3

「人への投資」を重点項目としており、例年 1 月の定期昇給に加え、直近 3 年間はベースアップを継続実施しており、従業員一人あたりの昇給率は 5.1%となっている。今後も社会の要請に十分に応えるべく、従業員エンゲージメントも向上させていきたい。

質問 4

東京大賞典などのビッグレース開催時に通路が埋まるほどの極端な混雑が発生している現状を踏まえ、JRA のスマートシートのような指定席化や係員の配置による動線整理を導入できないのか。また、3 号スタンド跡地の活用や各スタンドの高さが不揃いであるといった構造上の疑問に加え、雨天時にスタンド間を濡れずに移動できるよう照明鉄塔を活用した屋根の設置を検討できないか、さらには他場と比較して場外発売や週末の JRA 発売への対応が消極的である現状についても、ファンの安全と快適性向上の観点から併せて見解を伺いたい。

回答 4

3 号スタンド跡地について、現在はイベント等に活用する芝生広場「ウマイルスクエア」として開放している。安全確保や快適性の向上といった課題については、現在検討を進めている「競馬場再生整備計画」における重要課題として位置づけており、主催者である特別区競馬組合様と連携しながら、中期経営計画の期間内でより安全で快適な動線や施設環境を具体化させていく。また、場外発売や JRA 発売の実施判断については、主に主催者側の専決事項であるため当社単独での決定は困難だが、来場者が快適に楽しめる環境整備には、施設所有者の立場から引き続き注力していく。

質問 5
<p>収益の柱となっている「南関東 4 競馬場在宅投票システム SPAT4」について伺いたい。この 10 年ほどで急激に成長し、現在ではシェア約 50%を確保していると理解している。これまでの事業形態からするとシステム分野への進出は異色に感じるが、なぜこれほど大きなシェアを築けたのか、その背景や他社にはない強みについて教えてほしい。</p>
回答 5
<p>SPAT4 は地方競馬唯一の公式在宅投票サービスであり、現在では地方競馬全売上の 48%を占める規模に成長した。南関東のレースを発走 1 分前まで購入できる利便性や、地方競馬の全レースの発売を可能としている点が他社にない大きな強みであると認識している。12 の提携銀行による使い勝手の良さや独自のポイント制度に加え、電話投票時代から 30 年にわたり蓄積してきたノウハウや機能改善の結果、現在の大きなシェアを獲得している要因であると考えている。今後も引き続き、主催者様との協議連携を深めながら、さらに魅力的かつ存在感のあるサービスを提供できるよう努めていく。</p>

質問 6
<p>JRA の東京競馬場が所有と運営を一体で行っているのに対し、大井競馬場は施設所有者である東京都競馬と運営を担う別の組織（特別区競馬組合）に役割が分かれているという事業構造の違いについて、ファンや株主の誤解を招かないよう、大家である東京都競馬の立場や役割をより分かりやすく情報発信すべきではないか。</p>
回答 6
<p>当社は大井競馬場の施設所有者として観覧スタンドや馬場等の施設の維持管理を担い、競馬の運営一式については、主催者である特別区競馬組合様が行っている。</p> <p>JRA のような一体運営とは違い、互いの役割は異なるものの、両者が深く連携することで魅力ある競馬場づくりを目指している。ご指摘の通り、この事業構造や当社の役割については分かりにくい面があるため、今後ウェブサイトや資料等を通じて、より分かりやすい情報発信に努めていく。</p>